

# 碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩 心 会 発行

62年9月現在 会員数  
返子地区 179名  
葉山地区 274名  
大船地区 61名  
(合計) (514名)

62年9月号 (182号)  
発行 者 萃 岳  
編 集 者 岳  
中 村 愛 岳

## 偶 然

会長 根 岸 岳 萃

昨年の七月十五日、息子のいるカナダに、三週間程行って来ましたが、出発二日前の七月十三日、T社の吟道大会に招待され、懇親会の席上、T社の詩吟部長さん(職制でも生産技術部長)と隣り合わせ、部長さんが、昭和十二、三年来会っていない小学校時代の同窓生S君の弟さんだと聞いてびっくり。S君(同じ葉山に、それも拙宅とあまり離れていない処に住んでいる)の消息を聞いたたりして懐しさも手伝い、すっかり御馳走になってしまった。

それから二日後、カナダ行に旅立ったのですが、かねて知っていた、息子の未婚時代大変お世話になったY氏宅を敬訪問した。ところがそのY氏が、又々S君の兄貴と聞き、離日二日前にY氏の弟さん(T社詩吟部長)に会って来た事を話し、これ又御馳走になってしまった。

翌日、返礼の意味で、奥さんが息子宅に見え、又々私と小学校の同窓(中村愛岳さんと同級)と判り、又ワイフの女学校の先輩だったことが分った。  
Y氏が私の姉と同窓生で、出向の折、送

別会をしたことは既に知っていたが、私と約十年間、横須賀の米軍基地で一緒に勤務したことがあり、息子達が中学の同級生とか、あまりの偶然の一致に、唯々驚くばかりであった。  
本当に人間何時、何処で、人にお世話になるか分らず、人間関係の大切さを痛感した次第です。

人間の健康の条件として、四多一少法というのを以前書きましたが、この四多(接・泄・忘・忙)の多接、これは吟道勉強中に大勢の人に接して満たされますが、偶然は何時あるかも知れません。お互いに仲よく楽しく碩心会発展のため吟道に精進致しましょう。

### ◎大船地区温習会のお知らせ

と き 62年11月15日(日)  
と ころ 戸塚中小企業労働企業センター  
戸塚駅下車・東口スポーツセンター側・徒歩七分位

### 資格審議委員会ひらかる

8月28日(金)18時30分より桜山会館に於て63年度県本部実施高段者審査会の有資格の調査が行われました。

### 常任理事会議事概況

日時 8月28日(金) 19時~21時  
場所 桜山下会館

#### (1) 50周年記念吟道大会関係

(一) 大会経費の残金は、一般会計へ繰入れることとされた。

(二) 大会記録については、会場設営、式典、構成吟を主に記事及び写真により記録をされたが、合吟、独吟等の記念写真が皆無であった。次の大会には計画的に撮影するよう検討課題とする。

(三) 寒河江吟友会の招待について、接待を含め一切の事項を別途に一件書類として記録することとする。

#### (四) 会場(はまゆり会館)の座席中、前から三列目は音響悪し。(今後の参考に)

(2) 役員人事について  
(一) 広報副部長の増員について提案あり、各地区毎に設けることについて協議したが、更に検討することとされた。

(二) 会計部長、秋元梁岳氏を資格審議委員として選出した。

#### (3) その他

(一) 地区別温習会の開催に係り、大船地区の会員数を勘案し、逗子地区と合同開催の提案あり。又、葉山地区は会員が

多く、地域も広範囲に亘っているため、諸連絡等の隘路になっているので、二

分割案が提案されたが懸案となる。

(二) 吟道、吟道神奈川、碩心等刊行物の会員配布方法について、あらためて広報部と教務部が協議をし、素案を常任理事会に提案することとされた。

(三) 県大会、横二地区大会等、松井岳洋先生の出吟のとりまとめは、今後会長がこれを取り行うこととする。(総務部)

#### 唐木山発足五周年を迎えて

唐木山 深川 東山

我が唐木山教場が開設されて丸五年、小人数ではありますが、寺脇先生を中心に、時に厳しく、時に和やかに、此の間大過なく存続し今日に至りました。尤も私の場合、必ずしも優等生とは云い難く、自ら破門を申し出て二年間を棒に振り、生意気?にも只今家内の方が段位は上であります。

他の教場に較べますと、人数的にも、歴史的にも、未だしの感がありますが、全員一生懸命、吟道の心髄追求に精魂を傾けております。当日は根岸、加藤正副会長始め、沼田洗岳、中村幸岳、中村愛岳先生等、斯界の錚々たる権威の御臨席を得、和やかな酒席の中にも滋味掬すべき講話を拝聴出来

ましたことは、私共にとって無上の光栄でありました。

人間には理屈を抜きにして、自分の性に合った歌詞や節回しがあります。今、私に何が一番好きな詩吟は?と問われれば、即座に「本能寺」と答えることにしています。作者の頼山陽は「菘粽在手併菘食」と表現したように、恰も光秀が度胸がなかったかの如くなじり、第一、最初から悪者ときめつけています。嘗て光秀の母は、主君信長の謀略で殺されていますし、重臣満座の中で頭をこづかれたり、肉片のついたシャレコウベに酒をなみなみとそそぎ「光秀よ飲め」と強要したり、散々いじめぬかれています。

石田三成は、今様に云えば東大法科出身のエリートであり、信長としても多少の遠慮があったに違いありません。又秀吉に至っては「拝領仕ります」と、素直に受けるに相違ないし、これでは信長の加慮趣味を満足させません。現代のサラリーマン生活の中で、何となく上司から叱られ易いタイプと、そうでないタイプとがあり、光秀の場合、不幸にして前者であったように思います。光秀は美濃は明智が生んだ勇将であり、可成の教養人であったと云われます。その光秀が、如何に戦国の世とは云え、主

殺しの怖さを知らなかった筈はありません。備中でも、毛利氏と交戦中の秀吉を援けるべく、龜山を發した光秀が老の阪に至って、急拠鞭を東方に指した心の葛藤に、むしろ共感と同情を覚えるのです。一説には光秀に政權獲得の野望があったと伝えられますが、私は怨恨説をとります。

「鳴かずんば殺してしまえほととぎす」の信長や、「……鳴かせてみしょう……」の秀吉、「……鳴くまで待とう……」の家康は、夫々尾張、三河の出身で私の郷党ですので、信長に加担したいのは山々ですが、こと「本能寺の変」に関する限り、信長の自業自得で、光秀はむしろ悲運の武將と思うのです。

私達は各人各様の歴史観があり、以上私の「悪の論理」に異説をお持ちならば、是非御教示願いたいと存じます。

扱て、冒頭申し述べましたように、当唐木山教場は、誕生以来僅か五才、右も左も見分のつかぬ幼児でございます。今後此の未熟児が、良い子に育つか育たぬかは、偏に諸先生方の御指導と会員の皆様方の御協力如何に掛っています。

今回の五周年記念に際し、改めて関係各位に篤く御礼申し上げますと共に、聊か私見を披歴した次第です。

## 有り難う節

- 一、詩吟を愛する皆さんが  
今日も元気で逢えるのは  
碩心会のおかげです  
碩心会より難う  
会長先生有り難う
  - 二、逗子や葉山や大船と  
みんな仲良く出来るのは  
地区長先生のおかげです  
地区長先生有り難う  
地区長先生有り難う
  - 三、吟道会やら人事など  
みんなそつなく出来るのは  
総務の先生のおかげです  
総務の先生有り難う  
総務の先生有り難う
  - 四、初吟会や吟行会  
みんな立派に出来るのは  
企画の先生のおかげです  
企画の先生有り難う  
企画の先生有り難う
  - 五、原稿集めや編集と  
立派な月報が出来るのは  
広報先生のおかげです  
広報先生有り難う  
広報先生有り難う
- (梁岳作詞)

## 正岡子規

正岡子規(一八六六一—一九〇二)は日清戦争に従軍記者として出征したが、病氣となって帰国し、以後数年の間、病牀六尺の間に寝たまゝ、俳句と和歌と二つの革新をなし遂げたのである。一つの道を究めるだけで精一杯なのに、子規は俳句と和歌双方に秀でた詩人で、現代俳壇の主流をなすホトトギスと、現代歌壇の主流をなすアラギと、双方の開祖である事を思うと、子規は巨人である。又彼は実作もうまいし議論も強かったといわれる。

子規といえば、頭の禿げた横向きの写真が私達の目に浮び、これが三十七才で死んだ人とは思えない位、ふけてみえる。足腰たたぬ脊髄カリエスという重症の身で、自分はこの病氣でもこうなんだ。いわんや頭健な体の者達よりどうした……といわんばかりで、最もしいたげられた弱少な体に、最も牙え渡った強力な精神が宿っていた人間の実例を私達は見出すのである。

病床所見(明治三十四年)

臥して見る秋海棠の木末かな

臥病十年(明治三十五年)

首あげて折々見るや庭の秋

## 練吟メモ

○経験のない人は、詩吟を一体どう見るのでしょうか。某有名音楽家がいくつかの吟詠大会に招待を受けた後で、ある詩吟月刊誌に感想を載せていました。詳細な記事ですが、ここではほんの要旨のみを摘記してみました。私見は一切加えてありません。

○吟を拜聴していつも思うことは、吟は人なりということ。立派な吟をするような方は、やはり人柄も立派だと感じます。ですから、吟の鍛練に努めるとともに、行住坐臥教養を深め、品性を高めることに努められるようお祈りします。

○例えば、去年の今夜、清涼に待す。秋思の「詩篇、独り断腸」式に、なぜ第一句が第二句に食い込むのでしょうか。以下どんな長律も同じですね。とくに絶句は短い詩形です。詩人は一字一字を大切に、そして起承転結の構成に従って、感動を精一杯表現しています。それをなぜ変形して節付けするのでしょうか。

○伺っていると、どの詩もどの詩も、まったく同じ調子で吟じていることです。漢詩には、悲しい詩もあれば、勇ましい詩もあります。近ごろは風景詩も多くなりました

が、とにかく、これらがみんな同じ調子で吟じられているとしか聞えないのはどうしたのでしょうか。

○上手な人は、タイム、音程はもちろん安定しているが、中には途中から一本も二本も上ってしまった人が少くない。この現象が容認されている間は、詩吟は音楽の仲間入りはできません。詩吟は、日本の伝承芸術であると述べる向きもありますが、現状では遺憾ながら邦楽の圏外にあります。

○流(会)派により、多少の相違はあるようですが、現在なお戦前戦中と同じようにいわゆるガナリ吟詠を迫力ありとして推奨する向きがあります。この場合、自分の音以上で吟ずるので必ず音程に狂いが出ます。このように音楽性よりも精神面を重視する吟詠は、伴奏がつけられないので、音楽という「朗詠」部門に入りません。

○相当改められて来たとは言え、流(会)派により、標準語のアクセントから外れたもの、イントネーションを全く無視した吟など、発音に不感症となっているところがあります。これは指導者の研究不足が主因であると思います。吟詠の素材となる詩は五絶で言えばわずかに二十字、おまけに文語ですので、一語一語正しい標準語で吟詠しなくてはならないと思います。

### (住所変更) 新住所

98 舟渡舟風 葉山町長柄一六一七―一六

(電)〇四六八―七五―一五二―二二

### (入会)

807 神藤葉子 逗子市桜山一―八―一四

(葉月) 電〇四六八―七三―一三三―九七

808 高橋徳子 横浜市神奈川区西神奈川三―二六―一

(堀内・D) 電〇四五―四三二―二八―一

809 赤羽高山(再) 逗子市逗子一―八―一六

(桜山B) 電〇四六八―七―一〇―八九

### (退会)

115 大崎香風(桜山A) 298 高岡静風(桜山B)

354 黒崎宝泉(星山) 515 稗田松山(大船B)

602 磯部恒泉(大船B) 747 鈴木博(大船B)

今年はこれでもかこれでもかといつた猛暑が続きうんざりしていたら、久しぶりに本格的な雨が降って急に気温もぐっと下がり、ちょっととまどった感じ……でもほんとにホッとしました。夏から秋に季節は移ろいの時を迎えた。そして気になっていた月報の編集もなんとかまとまりホッとします。

秋元梁岳さん作詞の「有り難う節」、許証、教務、会計さんについてはそのうち発表できると思うのですが、皆さんも頭の体操のつもりで作って見たら楽しいかも。採用させていたゞきます。